

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号

148

江戸川区篠崎立小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差												
学年				第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	0	-1	-2	令和8年度の目標	+3	+2	+2	+2	-1	+1	+0.5	+7.5
令和7年度の結果	-1	-2	-3	令和7年度の結果	+2.9	+1.1	-1.7	-1.5	-2.0	+0.4	+0.2	+7.3
令和6年度の結果	-1	-3	-4	令和6年度の結果	-4.9	-6.3	-6.1	-11.5	-3.1	-1.7	-4.3	-6.8
令和5年度の結果	-7	-4	-1	令和5年度の結果								
年度	令和7年度 成果と課題			令和8年度								
内容				目標				目標達成に向けた取組				
学校全体	○算数科の授業研究に取組み、習熟度に応じた学習内容や学習進度で授業を行うことで、各層の児童の力をそれぞれ伸ばすことができた。 ●全国学力・学習状況調査や江戸川区学力調査の結果から、思考・判断・表現を必要とする「記述式問題」に課題がある。国語科では、理由や根拠を明確にして文章を書くこと、算数科では、式や図を用いて考え方を説明することが全体の弱いポイントで、知識を活用して自分の考えを表現する力の育成が課題としてあげられる。各層の割合に差があり、CD層の学習の未定着度に現状の課題がある。			・ワークテストの知識・技能 → AB層（正答率6割以上）80%以上。 ・東京ベーシックドリル診断テスト（2～6年生） → 平均正答率80%以上。 ・江戸川区学力定着度調査（4.5年生）・江戸川区学力調査（3～6年） → AB層6割以上。また、平均正答率を昨年度の数値より上回る。 ・6年全国学力学習状況調査 → 東京都の平均正答率と同等ポイント以上。				・東京ベーシックドリル診断テストを学期に1回実施をする。 ・週に2回様小タイムを設定し、国語と算数を中心に、学習ソフトの「ドリルパーク」や、児童の実態に応じた課題プリントに取り組ませる。 ・AB層→当該学年の学習内容、または、発展的な学習内容に取り組む。 ・CD層→学年を1つ下げるなど、習熟度に合わせた課題に取り組む。 ・週1回30分程度の補習教室を実施し、CD層の基礎基本の定着を図る。 ・4～6年生は、朝のモジュール学習で週に1回程度「YOMUよむワークシート」に確実に取り組む。				
第1学年	●国語科のC・D層は、主に裏面の漢字、言葉の内容で点数を落としている児童が多い。特に、漢字の読み・書きに課題がある児童が多いため、基礎基本の反復練習が必要である。算数科のD層は、意欲や読み取りに課題が見られるため、テスト実施の際に、隣で問題文を読んだり、助ましの言葉を掛けたりする必要がある。			・ワークテストの知識・技能 → AB層（正答率6割以上）80%以上。 ・ひらがな、カタカナ、漢字の読み書きの定着。 ・繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算までの定着。				・週に2回様小タイムを設定し、国語と算数を中心に、学習ソフトの「ドリルパーク」や、児童の実態に応じた課題プリントに取り組ませる。 ・AB層→当該学年の学習内容、または、発展的な学習内容に取り組む。 ・CD層→補習教室では、習熟度に合わせた課題に取り組ませる。 ・「トロロ（10までの数の合成・分解）」の繰り返しカードを授業前に唱えることで定着を目指す。 ・ひらがな、カタカナ、漢字の学習では、文字の部首を意識させて、書くことができるように、大型黒板やミニ黒板の活用をする。				
第2学年	○授業の課題が終わった後、「ドリルパーク」や「クハチジュウイチ」を使って自分で取り組むことができる児童が増えた。友達と一緒に考えたり、自分の考えを伝えあったりすることも定着してきた。 ○九九を日常的に言うように取り組み、ほぼ全員が九九の暗唱ができるようになった。 ●3学期東京BDの正答率が5問以下の児童が14名いる。CD層への対策が必要となる。 ●答え方を間違えていたり、単位を書き忘れたりというミスが多かった。テストが終わったら見直しをする習慣を定着させる必要がある。			・ワークテストの知識・技能 → AB層（正答率6割以上）80%以上。 ・ひらがな、カタカナの読み書きの定着。 ・漢字の定着→AB層（正答率6割以上）80%以上。 ・時刻と時間の読み取りの定着。				・算数の百ます計算を授業内や朝学習で継続的に実施する。 ・様小タイムにおいて、自分の苦手な領域に重点的に取り組ませる。 ・読書、音読の継続（時間の確保） ・漢字小テストを定期的に実施する。 ・生活の中で、時刻・時間を意識させる。Webアプリの活用。				
第3学年	○江戸川区学力調査では、両教科の平均正答率と、思考・判断・表現の領域が全校平均より上回っている。国語科の「選択式」「短答式」「読むこと」の領域においての正答率が高く、文章を読み取る力や内容を理解する力が身に付いている。 ●算数科「資料と表」では全国平均を下回っており、資料を読み取り、必要な情報を整理・活用する力に課題がある。国語科「言葉の特徴や使い」の領域にやや課題があり、語句の意味や使い方を理解する必要がある。			・ワークテストの知識・技能 → AB層（正答率6割以上）80%以上。 ・言葉への意識向上。 ・漢字の定着→AB層（正答率6割以上）80%以上。				・朝学習における、国語、算数の繰り返し復習を取り組ませる。（ドリルパーク） ・学習内容の定着に向けてドリルやプリントに取り組ませ、間違いの直し直しをさせる。 ・国語辞典の引き方の学習をもとに、分からない言葉に出会ったときに国語辞典を引くことを習慣化させる。 ・漢字小テストを定期的に実施する。				
第4学年	○江戸川区学力調査では、両教科の平均正答率が全国と同等の数値であり、全体として知識・技能の定着が見られる。 ●国語科の記述式問題や、「書くこと」の領域に全国平均との差が大きく、文章を構成して書く力や条件に合わせて自分の考えを書く力に課題がある。算数科の記述式問題と「平面図形」の領域に全国平均との差が大きく、式の意味を説明したり、数量や図形の性質の根拠を考え、判断する力に課題がある。			・学習指導要領における「数と計算」に関連する領域において、江戸川区学力定着度調査の正答率5ポイント以上向上。 ・BC層における学力調査での正答率5ポイント以上向上。				・算数少数人の時間の始めに、基礎的な計算練習を実施する。 ・百マス計算（たし算、かけ算）や取り組んでいる単元に関連する計算練習を行い、基礎計算力の定着を図る。 ・上のクラスではタイムを計り、自身の成長を可視化させ、自信や意欲に繋げる。 ・漢字小テストを定期的に実施する。 ・漢字練習の宿題の取り組み量を調整し、毎日繰り返しドリルで練習するようにすることで、正しい漢字の定着を図る。分からない字は、解答を見て、赤で記録するよう指導する。				
第5学年	○江戸川区学力調査では、前年度（4年時）との比較すると、両教科の平均点が上がっている。 ●江戸川区学力調査の結果から、両教科で思考力・記述を必要とする問題で正答率が全国平均を下回っている。 ●国語科「文章問題」「活用」、算数科「活用」の領域が全国平均を下回っており、思考・判断に伴う問題や、文章を活用して表現する問題に課題がある。 ●単元による正答率の差が大きく、学習内容の定着にばらつきが見られ、A層とD層との差が大きい。			・ワークテストの知識・技能 → AB層（正答率6割以上）80%以上。 ・漢字の定着→AB層（正答率6割以上）80%以上。 ・思考・記述を伴う問題の正答率を全国平均を下回らないようにする。				・週に2回様小タイムを設定し、国語と算数を中心に、よむYOMUワークシートや、児童の実態に応じた課題プリントに取り組ませる。 ・学習ソフトの「ドリルパーク」の活用や漢字の小テストを定期的に実施する。 ・AB層→当該学年の学習内容、または、発展的な学習内容に取り組む。思考力を問う問題に取り組む。 ・CD層→学年を1つ下げるなど、習熟度に合わせた課題に取り組む。				
第6学年	○江戸川区定着度調査では、全体として両教科の全国平均を上回っている。算数科「図形」領域を中心に、全国平均を上回る単元が多く、基礎的・基本的な知識・技能が定着している。国語科「聞くこと」「活用」に関する領域では、全国平均を上回っており、情報を整理・活用する力が見られる。 ●算数科「割合・百分率・歩合」の単元の正答率が相対的に低く、数量の関係を活用して判断する力に課題がある。国語科の記述問題では、全国平均を下回っており、自分の考えを根拠を基に文章で表現する力に課題がある。両教科から、「記述」「説明」「活用」といった思考・判断・表現を要する問題に共通した課題が見られる。			・ワークテストの知識・技能 → 正答率80%以上を全体の8割が毎単元とれるようにする。 ・漢字の定着 → 日々の漢字小テストにおいて平均90点以上。 ・江戸川区学力定着度調査において、全国平均以上。				・様小タイムにおいて、よむYOMUワークシートや、児童の実態に応じた課題プリントに取り組ませる。 ・学習ソフトの「ドリルパーク」を活用し、定期的に前学年までの既習事項を振り返る。 ・授業の中に漢字を練習する時間を設け、更なる定着を図る。 ・適用問題に毎時間取り組み、知識の定着・確認を行う。				